

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 1		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	平成22年1月25日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: [://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/kig/kig_dtl_khn_320](http://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/kig/kig_dtl_khn_320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成22年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間目標として「外出し気分転換を図る」と挙げています。入居者様の生き生きとした活動的な生活のために、機会があればドライブに出掛けたり、散歩、屋内歩行、外気浴等を日課としている。地域の文化際等に出品する為の作品作りにも取り組んでいる。施設周囲に、畑や花壇を作り、入居者様と共に手入れを行いながら季節感を肌で感じていただけるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の高齢化に伴い身体機能の低下が見られ、ケアの質に変化が生じてきている。職員はサービス提供の質を高めるために、勤務時間外で行われるカンファレンスに積極的に参加している。又、数名の職員が資格取得にチャレンジしている。家族とのコミュニケーションがよく取られており、家族に安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方の言動に否定的な態度や言葉掛けをしないで認めて受け止めるようにしている。	開所時より地域密着サービスの意義をふまえた理念が作られており、毎日のミーティングで理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや公民館活動の参加や日々の手作業で作った作品を町の文化祭に出品したり、散歩やゴミ出し等、出会った時には声を掛け合っている。	地域の祭りや公民館の活動に参加している。日常では、散歩の時やゴミ出しの時等に地域の人達との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護福祉士養成校の実習施設として登録をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で助言や励ましの言葉をもらいながら、それらを業務に活かしていくように心がけている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれており、参加メンバーから出された意見を基に、サービス向上に活かす取り組みが行われるようになってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	栄養面等についての助言やカロリー計算等をお願いをしている。	町の担当者と共同で介護保険事故報告書を作成したり、管理栄養士に食事のカロリー計算を依頼する等の取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期カンファレンス、日々のミーティング時に確認を行い、研修会等にも参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回のカンファレンスや毎日行うミーティングの時にケアについて確認しあい、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠もなく、隣のユニットや併設のディサービスへも自由に行き来できるように支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、カンファレンス時に伝達講習を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加しながらカンファレンス時に勉強会を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安、疑問点を伺い、きちんと説明を行い納得して頂き同意を得ている。施設見学もして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様にも出席してもらい意見を聞いている。職員はその都度、話を聞きミーティング、カンファレンス等で話し合っている。	家族も運営推進会議に出席して、意見や苦情を表す場が作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、リーダー会、カンファレンス時に意見を聞いている。それ以外にも随時話し合っている。	毎月1回、日勤業務終了後にカンファレンスが開催され、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。日中に行われるリーダー会でもその機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修会への参加等、向上心を持って働けるようバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画により研修会に参加し学ぶ機会を確保している。毎月のカンファレンス時に復命をし職員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修への参加と他施設への訪問見学にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを汲み取りながら職員が本人に受入れて頂けるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から何度か話を聞きご家族の思いを受入れながら良好な関係となるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い、状況を確認し必要なサービスが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ等一緒に行ったり、食材切り、食器拭き等、手・足の体操時の歌など一緒に唄ったりしながら、色々生活の中で教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月一回の便りで日々の暮らしの出来事や状態を知らせている。必要時には適時、電話連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々の面会や近隣の馴染みの美容院や食事等にも行っている。	併設のデイサービスの利用者との馴染みの関係を大切に交流の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様同士の関係が上手くいくように仲立ちを支援しているが、どうしても上手くいかない時が多々あるので、職員同士で連携しながら仲立ちし孤立されないように努めている。。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なかなか継続的な関わりとはなっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での表情、言葉、行動をよく確認するようにしている。	日々の関わりの中で、表情・行動・言葉等から思いを汲み取る支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活情報をご家族等から聞いたりし、その人なりの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の出来る事を役割としてやって頂きながら、生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングと毎月のカンファレンスで気づきや意見交換を行っている。ご家族様の意見や思いは面会時や必要により電話等で聞くようにしている。	家族の要望や意見を反映した介護計画が作成され、家族にわかりやすく説明されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに添ったケアと記録を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、リハビリ、入退院の付添い送迎など適時対応している。(必要により買物、美容院等も)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力で地域の方も参加いただいた際の消火避難訓練、救急蘇生法講習を行っている。地域の保育所とのふれ合いや歌や踊りのボランティアの方にも来ていただいて交流を深めている。町の文化祭等の作品展にも出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に月一回の往診と24時間での対応をお願いしている。	かかりつけ医は入居時に事業所の協力医になる事が話し合われ、協力医は月1回の往診と緊急時の24時間対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に1名の看護職員を配置している。日常的に相談と助言をもらっている。また状態著変時には協力医院と連携をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご家族様と連携をとりながら早期の退院を支援している。またご家族様の出来ない部分等のフォローも心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、職員で話し合いを重ね、協力医院からも助言を頂きながら今後の方針を話し合い決めている。本人、ご家族様の要望を大切にしながら出来る範囲での対応をとるようにしている。	家族、医師、職員で随時意思を確認しながら方針を共有し、事業所で2例目の看取りを行ったばかりである。	この経験を統括して、更に職員全員で支援に取り組まれる事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、施設内で定期的に救急蘇生法の講習を行っている。緊急時の連絡網とマニュアルも整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合訓練を実施している。地域の消火設備の確認等、その都度行っている。	年2回、地域の人も参加して総合訓練を行っている。備蓄は水とエンシュアリキッドが用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人ひとりの人格を尊重した声掛けと接し方になるよう配慮している。	日々の関わりの中で一人ひとりの人格を尊重した声かけと接し方になる様に配慮し、ミーティング等で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを否定せず傾聴しながら、話やすい雰囲気とし思いが表現できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、レクリエーション等、一日の大体の流れはあるが本人の気持ちを確認しながら自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容サービスを利用しているが、希望により地域の馴染みのお店にも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いをお願いしながら、本人の好み等を聞き食事の時間が楽しみとなるようにしている。	昼食は併設のデイサービスで作られているが、朝食と夕食は食事作りや食後のあと片付けを利用者と共に楽しみながら行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせ刻み、ペースト食等の対応を行っている。毎日摂取量のチェックを行い主治医の助言により補助食品の提供もを行っている。水分量もチェックを毎日行い目標量が飲めるようにと好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた汚れの除去と口臭予防の支援をしている。義歯の清潔についても曜日を決めて、汚れの徹底除去に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しその人の状態に合わせてながらトイレ案内を行っている。	排泄チェック表を用いて、トイレ誘導の支援をプライバシーに配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫と身体を動かす働きかけを日々行いながら自然排便ができるようにと努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めてはいるが、希望や体調によりいつでも入浴できるよう配慮している。	入浴日は決めているが、希望や体調により、いつでも入浴出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで横になってもらったり、居室に帰りゆっくりされたりと一人ひとりに思い思いに過ごしてもらう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は定期薬の内容は常に把握するよう努めている。特に薬の処方や用量の変更があった場合は状態の変化が見られないか注意し変化があればすぐに主治医に相談している。またチェック表を確認し誤薬がないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を支援しながら夕食準備や洗濯たみ、食器拭き等のお手伝いを職員と一緒にさせて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由にいつでも出かけられるようにしている。行事などは全員が参加出来るよう計画を立て本人の希望に添うように支援している。	身体機能の低下等により、外出の機会が少なくなっているが、短時間でも戸外に出る等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家人の了解により所持しておられる方もおられるが、職員が管理を行っている。買物、通院等の際には個別の必要とされる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来るようにしている。手紙がくれば本人に伝え必要とされる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂内には花を飾り、お風呂も菖蒲湯、柚子湯など行い季節感を感じて頂きながら気持ちよく過ごしていただけるようにと努めている。	食堂には花が生けられ、利用者と一緒に作った作品も飾られて、生活感や季節感を取り入れる工夫がされている。	廊下の電灯が点灯されておらず、暗い。事故防止の観点から検討が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、食堂、中廊下等にソファを配置している。入居者同士が散歩の際に座って自由に談笑したり居眠りしたりお茶を飲んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、馴染みのある物を置くことで不安感を取り除き部屋全体が落ち着けるように工夫している。	居室は使い慣れた家具や馴染みの物が置かれ、掃除が行き届き、落ち着いた雰囲気が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の戸には分かりやすい字で表札をかけた間違いや混乱を防ぐようにしている。一人一人の状態に応じて、出来る力に配慮しながら支援している。		